

### 目指す姿

持続可能な社会の実現が声高に叫ばれる昨今において、そういった環境的な配慮などを意識した、SDGsを取り入れた会社であることを主張している。一番最初のページにあるトップメッセージにもその趣旨がでかでかと書かれている。

### 競争優位性

日本シムエムケイはプリント配線板の会社である。自動運転技術の発展に伴うまれた、その膨大な市場をキャッチすべく、小型化、高性能化に努めている。高周波対応配線板とあって、79GHz帯域の高精度センサー用途として提供できるのは何よりの強みであり、アンテナとコントローラーの一体化要求にも対応可能な技術力も優位性である。また、高い放熱性を不可したプリント配線板を提供でき、発熱問題に関しても解決可能であり、またそれにより、大電流要求の対応を実現している。小型化に関しても、配線密度の向上に対応できている。そしてなにより特筆すべきは、折り曲げ可能な配線板である。それは三次元設計による製品の小型化に寄与し、ワンセット、ワンボード化によるコストの抑制、コネクタレスによるノイズの抑制を可能にしている。

### 推進力

SDGsや、上の目標を達成するため、日本シイエムケイは水深ん会議事務居をたちあげている。副社長との対談やイノベーションセンターの開設、留学生の奨学金の援助、社用車をガソリン車からハイブリッド車へ切り替えなどを行っている。

### 人的資本の価値向上

情報セキュリティの強化のための従業員の教育や、多様な働き方に対する対応例などが記述されていた。裏を返せばそれくらいしか書かれておらず、あまり一人一人の従業員の存在が統合報告書を通して見えてくる、といったことはなかった。私個人としてはSDGsを全面に掲げている企業より、営業が強い、であったり、競争優位性を保つための取り組みの一環としてこんな教育を行っています、といったことを載せている企業のほうが、個人の能力もあがるような気もして、働きたくなる。SDGsが大切なのは理解できるが、こうも一辺倒だと人的資本の価値向上という側面において疑問を抱かざるを得ない。

### 報告書 改善余地

SDGsの話題が統合報告書の大部分を占めており、会社の競争優位性などがいまいち伝わりづらかった。また教育制度など、従業員に対する扱いが不明瞭であり、統合報告書としては十分かもしれないが、少なくとも一人一人の従業員の存在が統合報告書を通して見

えてくる、といったことはなかった。また、個人的にはもう少し定性的ではなく定量的な分析が情報として加わっていると嬉しかった。